

2017年を振り返ってみて

年も明けて2018年になりました。去年はアメリカの大統領がトランプ大統領に代わったり、中学生でプロ棋士になった藤井聡太4段が29連勝し、他にも、上野動物園でパンダの赤ちゃんが生まれるなど様々な事がありました。今回は2017年に文学関係で、どの様な事があったかまとめてみました。



1月は恩田陸さんの「蜜蜂と遠雷」が直木賞、4月に本屋大賞とダブル受賞の快挙を成し遂げました。



2月は村上春樹さんが4年ぶりに書下ろした長編「騎士団長殺し」を発表しました。

10月にはカズオ・イシグロさんがノーベル文学賞を受賞されたり、文学界の藤井聡太と言われている鈴木るりかさんが14歳で作家デビューをしました。



2017年は文学関係でもいろいろな事がありました。図書館には「蜜蜂と遠雷」や、「騎士団長殺し」それに、カズオ・イシグロさんの本もあります。ティーンズコーナーには鈴木るりかさんのデビュー作も所蔵しています。もしも興味がありましたら、今年読む本の1冊に加えてみませんか。

Teens Joy

10代のみなさんへのおすすめ図書リスト



No.31 2018.1

清瀬市立図書館

13歳から身につける
一生モノの文章術

近藤 勝重／著
大和出版



”メール”より”手紙”とこの本の作者は言っています。「書くこと」には、メールではできないことがあるそうです。書くことで気づき、自分と向き合える。書くことを通して自分を客観的に見る事ができ、思いを伝えることができるようになるそうです。

皆さんも知っている、作家の司馬遼太郎氏は、「文章語にして語れ」と言います。書くことで話し言葉が磨かれ、また、話し言葉を磨くことで「書くこと」も磨かれ、頭と心の往復運動になります。

この本には「書くこと」の技術も満載です。改めて皆さんも「書くこと」に挑戦してみませんか。

<竹丘図書館 仲丸>

この本は数学がどの様に、世の中で役に立っているのかを紹介しています。分かりやすい例えや心が和むイラストで、驚いたり楽しみながら数学のヒントが得られます。

「ジャンケンで勝てる確率を増やす方法とは?」「余計な情報がミスを減らすってどういうこと?」「スキーのコブをうまく滑る数学的コツとは!」「数学的に教えるブランコの上手な漕ぎ方!？」

普段は考えないが考えてみるとやっかいな問題や、日常生活で数学とは関係ないこともスウガクの思考で解説してくれます。

<駅前図書館 松永>

スウガクって、なんの役に立ちますか?

杉原 厚吉／著
誠文堂新光社



主人公のまいは祖母が危篤だと連絡を受け、祖母の家に向かいます。

まいは中学に入学して間もない頃に不登校になり、夏の一か月間、西の魔女と呼ばれている祖母と暮らし魔女になる修行をします。魔女になるための修業は順調でしたが、あることがきっかけで祖母と喧嘩をしてしまい、そのまま別れてしまいました。しかし祖母が亡くなった後、まいは祖母が生前に残したメッセージに気づきます。

この作品は「基本の大切さ」「考えて動く事」「他人を受け入れること」等、人として大切なことを考えさせられます。

<中央図書館 根岸>

西の魔女が死んだ
梨木香歩作品集

梨木香歩／著
新潮社



きみはぼくの宝物
史上最悪の夏休み

木下 半太／著
幻冬舎



江夏七海、小5の夏休み、冒険家?の父に仕事を頼みたいと依頼があった。この父は一般常識や一般教養というものがまるでない。

幼稚園のとき、近所の公園で、「パパかくれんぼしよ」と言った時、「よし、パパがかくれるから、十秒数えたら見つけるんだ」と言って、二週間後、瀬戸内海の離島で見つかったぐらいだ。そんな父と友人たちとで、宝探しを始める。

読んだあと、スカッとする、爽やかな冒険小説です。

<野塩図書館 林>